

第9節 環境教育・環境学習の推進

1. 環境教育・環境学習の現状

今日の環境問題を解決し、後世に引き継いでいくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、環境に配慮した行動を心がけ、できるだけ環境に負荷をかけない生活をしていくことが必要です。

こうした生活の様式や習慣などを幼い頃から意識付けすることはとても重要と考え、自然体験や環境学習など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。この環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

また、環境学習や環境活動の拠点である環境学習室「エコひろば」では、環境市民会議の環境保全活動を支援する人材育成や小中学校への環境教育支援事業、環境に係る情報提供など、幅広い事業を展開しています。

2. 環境教育・環境学習の取り組み

(1) 環境学習の推進

ア. 環境の拠点

環境学習室「エコひろば」は、市民・事業者や環境保全活動団体などが環境に関する活動を展開するなどの拠点として17年に設置し、5周年を迎えました。

記念行事は1月30日からの8日間、初日は副市長を招いての式典と講演を行い、その後、環境教育支援事業を受けた児童の発表会や講演会を開催するなど、延べ915人の来場者がありました。

また、夏休み親子環境教室や環境啓発講座を開催するなど、1年間で延べ13,295人が来場し、前年と比べ約10%の増加となりました。

イ. 人材育成と環境指標

(ア) 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書として「ちえっくどう」があります。この「ちえっくどう」を用いて環境診断を実施する際に、指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、54名が活躍しています。

また、環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動や小学校を対象に行っている環境教育支援にも協力しているほか、環境フェスティバルでは251人の来場者を対象に「ちえっくどう」を実施し、その結果からエコアドバイスも行いました。

なお、「ちえっくどう」も策定から5年が経ち、この間に環境への取り組みも大きく変わったことから、環境診断士の協力を得て、全面的な改訂作業に着手しています。22年度の「廃プラスチックの資源化と戸別回収」の事業開始にあわせて内容を見直し、23年度には発行する予定です。



児童向け「地球温暖化」講座



環境フェスティバルで環境診断

(イ) 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、１４年度から養成しています。

「エコひろば」では環境教育支援事業を展開し、大きな成果を上げていますが、環境学習リーダーが中心となって積極的に推進しています。

(２) 環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、１０月１７日に行ったサツマイモ掘りには親子４９組、１６１人が、また、同月２５日に行った道の駅事業となったガーデニングには３３人が参加しました。

さらに、林業体験では、１２月５日に行った間伐と椎茸の植菌作業では、八王子市林業研究会に委託し、２０人が参加しました。

また、町会など地域団体をはじめ、市民団体、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関及び八王子市で組織する『八王子浅川子どもの水辺協議会』では、「水辺のかんきょう教室」を開催し、１６４人の小学生などが参加し、川に親しみながら、水辺環境について学習しました。



自然体験講座でコースター作り



自然体験講座でコースター作り

そのほか、地域の自然環境を市民に体験してもらおうと、市と環境市民会議が協働で「自然体験講座」を７回実施し、延べ２０６人が参加しました。

さらには、小中学校における総合的な学習の時間や市民主催の学習会などに市の職員が講師として出向く「はちおうじ出前講座」では、「八王子の環境」、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」など６講座を開講し環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図りました。

■主な出前講座（環境分野）一覧

講 座 名	内 容	参加人数
八王子の環境	大気環境及び河川の水質について説明	７０人
自然は友だち	本市のみどりや生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	５０人
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別、発生抑制の説明及びＤＶＤ上映	１，７３２人

また、「はちおうじの環境をみる・きく・考える」をメインテーマに、産官学民の協働のもと６月６日「２００９八王子環境フェスティバル」を八王子駅北口西放射線ユーロードにて開催し、曇時々雨の空模様の中、延べ３５，０００人の来場者でにぎわいました。



２００９八王子環境フェスティバル

(3) 環境教育の充実

ア. 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

学校教育における環境教育を一層推進するため、「学校教育における八王子市環境教育基本方針」を策定し、17年6月に公表しました。この基本方針は、子どもたちが身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、自然を大切にする心を育むことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標としています。

この目標を実現させるための取り組みとして、20年度からは全校において、環境教育全体計画及び年間指導計画を策定して、環境教育の実践を行っています。また、21年度には、小中一貫教育指導資料に環境教育の実践事例等をまとめ、全教員に配布し、各校における環境教育の充実に努めています。

イ. 環境教育副読本の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」における環境教育目標である「環境問題に関心をもち、環境問題を解決する行動力をもった人の育成」を実現するため、より幅広い環境について学べる環境教育副読本『八王子市のかんきょう』を20年3月に初版発行し、小学4年生に配布しています。

分野は、「緑」、「資源」、「水」、「大気」の4つとし、各学校の地域特性にあった学習が行えるよう、又、学習の案内を行うキャラクターを使って児童が学習に親しみやすいよう、工夫しています。



八王子市の環境教育副読本

また、ごみ減量・リサイクルの意識を育てるための社会科副読本として『きれいなまち八王子』を作成するとともに、川への関心を高めるために『川と友だちになるノート』も作成し、毎年市立の小学4年生に配布しています。

学校ではこれらの副読本を活用し、環境教育の充実を図っています。

(4) 地域との連携による環境教育

「エコひろば」では、市立の小・中学校において総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習に、その地域特性を活かした活動を行って知識・経験ともに豊かな環境市民会議や環境学習リーダー、環境診断士の皆さんを紹介する、環境教育支援事業を行っています。

21年度は、5月の由井第3小学校からはじまり2月の由木東小学校までの10校に対し、延べ365人の支援者が携わりました。



環境教育支援事業
—児童による体験発表会—

(5) 環境情報の提供

1) 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、毎年、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を点検・評価した結果を環境白書にて公表しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

2) 「環境報告書」の発行

八王子市内にある下記6ヶ所の清掃施設等について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取り組み内容及び実績を公表しています。

■ 6ヶ所の施設

1	北野清掃工場	4	北野衛生処理センター
2	館清掃工場	5	北野下水処理場
3	戸吹清掃工場	6	戸吹不燃物処理センター

3) ホームページによる環境情報発信

八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

4) 八王子市環境学習室「エコひろば」ホームページの開設

「エコひろば」でもホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/>)を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

3. 評価

環境基本計画に掲げた5つの重点取り組みでは、分野ごとに毎年度目標を立て、事業を進めてきました。そこで、その目標に対しての達成度や貢献度の評価結果を3段階の★印で示すとともに、市での内部評価及び環境推進会議での相互評価の内容を公表しています。

ここでは、「教育・学習」の分野についての評価結果を掲載しています。

評価：★★ 当初の目標を達成した

<市の内部評価>

市民が自然と接することのできる唯一の体験イベントである「自然体験学習」では多くの参加者に恵まれ、目標以上の成果が得られたことから、事業の促進を図りたい。

また、学校教育では、環境月間に行ったCO₂削減のための学習や環境をテーマにした子どもミーティングの開催などを行ったことは高く評価できる。

しかし、環境市民会議の活動や会員の拡充のための支援については、意見交換により課題の抽出はできたものの、支援策が出されていないことからその解決にあたられたい。

なお、環境学習室「エコひろば」は環境関連の総合的な施設であり、その実績は顕著に上がっていることから、更なる活用の拡充を図られたい。

<環境推進会議での評価>

教育・学習の分野は着実に推進されていると評価する。

今後更に取り組みを進めていくにあたり、市の環境政策と学校の環境教育が連携して推進できるよう、両者で調整すること。